

# 「友松」の変遷 II

2011.2.1 発行  
シリーズ 2-12  
「友松」47号

昭和34年の評議員会で、役員全員が重任になったと報告されている。また、下の記事は総会開催通知で、場所は「江の島へるすせんたー」となっている。

## 友松会総会

(1)日時 来る十一月二十九日(日)  
午前十時正から受付、午前十一時三十分開会

(2)会場 片瀬西江の島(へるすせんたー)  
電話六〇六〇番

(3)会費 会員 一八三〇円  
当日受付(在券と引換える)(学校内会員はとりまじめ)

(4)出席 十一月二十一日(土)までに必ず本部に申込むこと

(5)出席の役員又は非現職職員は、順々に申込むこと

(6)各学校の先達および同期生代表者は多数出席の勧誘を乞うこと

(7)出席の役員各位には多数の御申込の程お待ち致します。

(8)開会式 午後二時

(9)閉会式 午後四時

(10)懇話会 午後五時

(11)懇話会 午後七時

(12)懇話会 午後九時

(13)懇話会 午後十一時

(14)懇話会 午後十二時

(15)懇話会 午後二時

(16)懇話会 午後四時

(17)懇話会 午後六時

(18)懇話会 午後八時

(19)懇話会 午後十時

(20)懇話会 午後十二時

昭和34年の卒業状況は、4年課程263名、2年課程6名となっている。教職に就いたものは、66%となっている。(2年課程の卒業生が少ないのは4年課程に編入したものである)

母校(学芸学部)の状況を見ると、既に2年課程は無くなっている。

昭和34年9月25日(金曜日)

## 友松会報

(1) 第47号

### 母校との交流

母校 水戸部 正男  
客員校 水戸部 正男

神師の卒業生として、この頃には、どの程度も神師の母校に行きたくなく、ほとんどおられないが、それか、鎌倉に生かす足向かない。どの程度も神師の母校に行きたくなく、ほとんどおられないが、それか、鎌倉に生かす足向かない。どの程度も神師の母校に行きたくなく、ほとんどおられないが、それか、鎌倉に生かす足向かない。

### 母校との交流

母校 水戸部 正男  
客員校 水戸部 正男

神師の卒業生として、この頃には、どの程度も神師の母校に行きたくなく、ほとんどおられないが、それか、鎌倉に生かす足向かない。どの程度も神師の母校に行きたくなく、ほとんどおられないが、それか、鎌倉に生かす足向かない。

### 友松会報

友松会報

### 母校との交流

母校 水戸部 正男  
客員校 水戸部 正男

### 友松会報

友松会報

友松会報 昭和34年9月25日(金曜日) (4)

## 評議員会

(1) 評議員会

(2) 役員改選

(3) 会費納入について

評議員会は、学芸学部会議室で開催され、予算決算承認、役員改選等が行われている。役員は、前述のように全員重任となっている。

### 『当時の短歌・句稿から』

大9卒 常葉 ヨシ

星青くふりゆく夜を海辺なる菅火  
かこみて賑わしくいる

明43卒 小野 藤蔵

田植せし田の水すみて夕空のうっ  
れる中にかきつはた浮く

明42卒 白井 暁花

麦秋のむしろはたげ永き日も暮  
るるに近く風呂よぶ声す

明41卒 広田 清治

相模野や稔り豊かにいわし雲

明43卒 西川 松韻

端居して原爆語る遠花火